

# 県医大 研修先に人気

## 全国3位「選択の自由度」好評

全国の新人医師の研修先として県立医科大学（和歌山市紀三井寺）が人気だ。来年4月から研修する病院を選ぶマッチングで、県立医大を第1志望とした医学部生は65人になり、全国に79ある大学病院のうち3番目に多かった。定員に占める割合を表す充足率も95・6%と高く、上位を都市部の大学が占める中、異彩を放っている。



県立医科大学で研修を受ける山下真史さん（左）と、卒後臨床研修センターの島幸宏・副センター長（和歌山市紀三井寺）

### 充足率は95% 異彩

臨床研修は国家試験に合格した新人医師が2年間、複数の診療科を回り研修を受ける制度。学生は全国にある指定病院の中から研修先を自由に選ぶことができ、そのため、病床数や症例も多くなって生活にも便利な都市部の病院に人気が集まる傾向にある。医師臨床研修マッチング協議会（東京）の9月の発表によると、学生が研修先の第1希望に選んだ大学のうち10位以内に入った地方大学は、県立医大の他に47人が希望した佐賀大（8位）だけだった。

県立医大の人気の理由について、同大卒業後臨床研修センターの島幸宏・副センター長（41）は「カリキュラムを研修中に決めることができる自由度の高さ」と分析する。

臨床研修は内科、救急、地域医療の必須科目に加え、興味がある診療科を選択して行われる。ただ、通常は病院や新人医師が研修1年目の初期に2年間の研修内容を定めるため、カリキュラムは固定化しがちで、研修中に新たに興味のわいた分野が出てきても、簡単にカリキュラムを変え

■初期臨床研修の大学病院の人気ランキング（2013年）

順位	病院名	希望者数(定員)	充足率
1	東京大	110人(126人)	87.3%
2	東京医科歯科大	100人(119人)	84%
3	和歌山県立医大	65人(68人)	95.6%
4	京都大	62人(84人)	73.8%
5	大阪医科大	50人(53人)	94.3%
6	神戸大	49人(74人)	66.2%
6	筑波大	49人(87人)	56.3%

医師臨床研修マッチング協議会（東京）の発表をもとに作成

るのは難しいという。一方、新人医師は経験も乏しいため、将来どういう分野を歩みたいかを研修初期に決められないことも多く、研修中に将来の希望が変わることが珍しくない。

そこで県立医大では、研修中に研修内容を定めることができる柔軟な制度を採用している。研修内容は診療科の研修を始める2、3カ月前までに決めればよく、また研修する診療科についても、大学と協力関係にある県内外の27の協力病院から選ぶこともできる。

協力病院には大阪、北海道や沖縄、秋田にある病院も含まれ、2年間のうち8カ月間は大学病院での研修が必須だが、そのほかの期間はどの協力病院で研修してもかまわない。大学に籍を置きながら、一般診療科目の研修を外部の病院で受けられることができるのは全国的にも珍しい取り組みという。

救急医を志す山下真史さん（27）は研修2年目。出身

の京都府内での就職を希望していたが、医学部生を対象にした就職フェアで県立医大の取り組みを知り、希望を変えた。

これまで大学病院や公立那賀病院、国保日高総合病院などで内科を中心に研修した。内科医志望ではないが、「救急医は初期診断が命。大学病院では紹介状を持った患者が多く、自分で診断する力が見つからない。地域の内科で基礎的疾患を多く見ること、診断する力が養えると思った」とカリキュラムを選んだ理由を話し、「県立医大に来たことで自分の将来像に合わせた研修ができています」。

島副センター長は「研修の選択肢を上げ選択の自由度を高めたことで、多くの研修医を引きつけることができた。今後は、医師不足が叫ばれる中で県立医大で研修した人が一人でも多く県内に残り、地域医療に貢献して欲しい。そんな医師を育てていきたい」としている。

（宋潤敏）